

旧国鉄廃線跡 愛岐トンネル群見学会

歩いて知る産業遺産

明治期に多治見市と愛知県春日井市を結んでいた旧国鉄中央線廃線跡(約8キロ)で、赤れんが造りの愛岐トンネル群の保存に取り組んでいるNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」

(春日井市)の多治見支部は11月21・23日、現地見学会を開く。愛知県側を中心に進んできた保存運動を本県側でも盛り上げ、産業遺産の現状を知ってもらおうのが狙い。(市来哲郎)



廃線跡のトンネルを散策する保存再生委員
員。愛岐トンネル群保存再生委員会提供

保存会多治見支部が来月

廃線となった区間は1900年、同県瀬戸市や多治見市などの窠業地帯と、消費地の名古屋市を結ぶ運輸路として開通した。その後、中央線が複線化され、新ルートが開通したため、66年に廃線となった。

山ひだを縫うように走る廃線区間には現在、東海地方で最も古い13基のトンネルが残っている。同委員会によると、トンネルに使われた赤れんがは1890万



個に上り、ほとんどが多治見市内で製造された。同委員会ではトンネル4基を含む民有地の春日井市側1.5キロ分の廃線跡を買い取るため、2年前から草刈りや現地見学会を開催し、1500万円を目標に

寄付を募っている。当日は1口1000円を寄付した参加者に、旧国鉄の切符「国鉄定光寺から10000円区間」を模した特製切符「写真下」を手渡す。普段はトンネル内に立ち入れないが、今回は許可を得た四つのトンネル内を歩くことができ

る。今年6月に結成された多治見支部の代表、

堀部和経さん(53)は「一人の手が加わっていないため、トンネル群の周辺はまるでタイムスリップしたような錯覚になる。1人でも多くの人に参加してもらいたい」と呼びかけている。

参加無料。時間は午前10時から午後3時。雨天中止。

JR定光寺駅(春日井市)

から北へ徒歩3分の受付場

所に集合する。問い合わせは同委員会事務局(0568・87・6533)へ。